

平成26年度 第3回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 平成27年3月26日(金) 15時～17時30分

開催場所 文教ビル5F コンベンションホール

出席者 別紙参照

1 開会

2 議事

(1) 第1号議案について(資料1)

- ・ 第1号議案 専決処分につき承認を求めることについて、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

(2) 第2号議案・第3号議案について(資料2、資料3)

- ・ 第2号議案 平成27年度事業計画及び第3号議案 平成27年度収支予算について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、会長職務代理者より承認を求めた結果、異議無く承認された。

● 後藤委員(運輸支局)

- ・ 事業計画で、法改正後に形成計画を是非策定して頂きたい。形成計画が策定され、再編実施計画まで実施して頂くと、補助金の増額が見込めるが、そうでない場合はフィーダー補助が今後減額される可能性がある。形成計画では、コミュニティバス及び近江鉄道のダイヤ改正、愛のりタクシーの一体的な見直しをまちづくり施策と一体となって検討することが求められている。
- ・ 地域間幹線系統は車両購入補助が出るので、次年度以降上手く活用いただいて、市町の負担を減らすほうが国庫補助は安定して得ることが出来る。

● 上野委員(甲良老人クラブ連合会)

- ・ 愛のりタクシーの本格運行により明らかになった課題とは何か。また、運行費用の膨大な金額との関連について。愛のりタクシーをこれ以上利用促進させて良いか老人クラブとしても悩ましい。
- ・ 路線バスの利用がなぜ少ないか、という検討が出来ているか。例えば朝の混雑する中でバスを利用しろと言われても難しい、その辺りも含めて検討されようとしているか。

● 事務局

- ・ 愛のりタクシーについては、ご利用が増えており、事務作業が膨大になっている。
- ・ また、当初の想定ほど乗合率が高まらず、行政負担が増加していること、このまま利用が増え続けると、愛のりタクシーの仕組みが将来維持できるかどうかについて課題と認識している。これらについて、利用者アンケートや交通事業者との協議を踏まえ、将来的な愛のりタクシーのあるべき姿を見極め、形成計画に活かしていきたい。
- ・ 路線バスについては、なぜ利用が伸びないか、圏域住民に対して公共交通についての

アンケートで利用者の意見を伺いながら、活性化協議会で検討していきたい。

● 上野委員（甲良老人クラブ連合会）

- ・ アンケートだけでは実態がつかみきれないところがあるのではないか。なぜ利用者が伸びないのかについては、本数の問題、定時性、JR との接続の問題など、高齢者からの意見を伺っている。愛のりタクシーは使い慣れないということが一番の原因で、極め細かくサポートが必要を感じている。一方で、愛のりタクシーでは行政負担が増えるばかりでこれぐらいで止めておいたほうが良いのかとも思っている。
- ・ バスについては、萱原線のバスが朝の渋滞の中で遅れ通勤に間に合わず使えない中で、そのあたりも検討することが運行の活性化にもつながるのではないか。

● 事務局

- ・ アンケートだけでは掴みきれないのではないかということについては、地域に出かけて行って、意見を伺うようなことも合わせて検討したい。

● 樋口委員（滋賀県バス協会）

- ・ 27年度事業計画の中にモビリティ・マネジメントが盛り込まれているが、現在自動車を利用されている人が自発的な利用転換を促す施策と理解している。なので、学童に対するモビリティ・マネジメントという表現に違和感がある。
- ・ その地域にあったサービスとするため、集落に出かけて意見を汲み、施策に反映することが必要。例えばバス停に駐輪場があればバスに乗って頂けるようなニーズがあれば、施策への反映が考えられる。
- ・ 愛のりタクシーも利用が伸びれば将来的には定時定路線のバスに移行して、バス停に行けばバスがくるという安心感がある状態に持つていくための取組も必要。

● 事務局

- ・ 平成27年度に多くの地域でワークショップを開催できるように、計画の中に追加していきたい。
- ・ 城東小学校ではこれまでバスに乗ったことがない小学生が多かったが、バスの乗り方を含め教育していくことで、将来的なバス利用に繋がればと思いきやそういう取り組みをさせていただいた。

● 野本委員（聖泉大学）

- ・ 路線バスの数値目標について、73万人の根拠があれば教えて欲しい。
- ・ 愛のりタクシーの乗合率を、当初目標の1.5から1.45に減らした根拠を教えて欲しい。

● 事務局

- ・ 平成26年度の利用者が71万人であり、前年度から3万人増となった。連携計画では毎年2万人ずつの増加を目標としていることから、27年度の目標については前年+2万人の73万人とした。具体的な施策としては、乗車数の少ない路線は利用啓発の部分で増やしていきたい。
- ・ 愛のりタクシーの乗合率については、連携計画では目標年次の平成28年度で1.5人であり、本年度は1.45とすることが適当とした。

(3) 第4号議案について

- ・ 第4号議案 道路運送法第9条第4項及び同法施行規則第9条2項に掲げる協議が調っていることの証明書に係る協議について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

(4) 第5号議案について(資料5)

- ・ 第5号議案 湖東圏域地域協働推進事業計画(案)について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

(5) 第6号議案について(資料6)

- ・ 第6号議案 生活交通改善事業計画について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、会長職務代理者より承認を求めた結果、異議無く承認された。

● 後藤委員(運輸支局)

- ・ ノンステップバスの補助については、会計検査院より、ノンステップバスの運行情報を公開して欲しいとの指摘があった。指示ではないが、運行情報の公表についてご検討頂きたい。

● 事務局

- ・ 現状の湖東圏域のバスの運行については、少ない車両で多くの路線を運行しており、車両トラブル時の融通も複雑になる可能性がある。ノンステップバスの時間を特定することが難しい。現在検討しているインターネットでの情報提供も含め、検討の余地はある。

● 山根会長

- ・ 高齢者にとっては、紙ベースでないと難しいのではないか。

● 樋口委員(滋賀県バス協会)

- ・ ノンステップバスであることの情報を、営業所に問い合わせがあれば分かるという仕組みにする方法もある。

● 川端委員(湖国バス・代理:森野課長)

- ・ ノンステップ(低床)バスの運用については、当初導入時は時間を特定していたため、時刻表に「低」表記をしていた。しかし、トラブル時など車両の交換が必要となった時に、それをあてにされてバス停でお待ちいただいた方に苦言を呈されたこともある。現在の車両運用上、確実にノンステップバスを固定して運用することが難しい。営業所にお問い合わせして頂ければお答えできるようにするなど、当社としても利用しやすくなるよう、関係者と相談しながら進めていきたい。

(6) 第7号議案について(資料7)

- ・ 第7号議案 生活交通ネットワーク計画について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、会長より承認を求めた結果、異議無く承認された。

(7) 報告事項1について(資料8)

- ・ 報告事項1 ご城下巡回バス、多賀線、南彦根県立大学線の一部改正について、事務局より資料に基づき説明及び報告がなされた。

(8) 報告事項2について

- ・ 報告事項2 路線バス及び愛のりタクシーのダイヤ改正について、事務局より資料に基づき説明及び報告がなされた。

(9) その他報告事項 地方創生に係る施策について (別紙)

- ・ その他報告事項 地方創生に係る施策について、後藤委員 (運輸支局) より資料 (別紙) に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 上野委員 (甲良老人クラブ)

- ・ 貸切バスの料金が非常に高くなり、高齢者が毎年楽しみにしているバス旅行も高くなってしまい、2年に1回になってしまった。出来るだけバスで行けるようなことを考えているが、貸切バスが高いため、シルバー割引ができないか、是非ともご検討頂きたい。

● 後藤委員 (滋賀運輸支局)

- ・ 貸切バスの運賃については、関越道の高速ツアーバス事故を踏まえ国で大幅な見直しをしている。貸切バスの事業は規制緩和の流れで参入が自由になり、値段の下げあいで過当競争となったことも事故の遠因となったこともあり、適正な運賃を徴収するとともに安全確保の取組を強化することとなった。下限運賃を超える割引は禁止しており、障害者・高齢者割引などは実質機能していないと思われる。しかし、安全には一定のコストがかかる中で、その分に見合った運賃を国として徴収を指導している。料金は高いがご理解いただきたい。

● 武永委員 (滋賀大学)

- ・ 買物難民支援については、高齢者の地域支援に関するビジネス展開を、NPOと学生が検討している。単なるボランティアですることにはなかなか難しいが、アイデアとしては面白く、何らかのビジネスモデル、地方創生枠に応募できる可能性はある。
- ・ 滋賀大学に就業支援室があり、教育の一貫としても企画を持ち込んでいただければ、一緒に出来る部分はあると思うので声をかけていただければ。

● 山根会長

- ・ 観光客や大学との連携のためのバスの運行について提案は時々あつたりするが、特に公共交通に関して地方創生との関連することについて何かご提案いただけないだろうか。

● 樋口委員 (滋賀県バス協会)

- ・ 地域消費喚起型でプレミアム商品券を出された時に、バス回数券などを買ってもらえれば利用喚起につながるのではないか。観光と公共交通とのコラボは考えられるので、その中に国の補助の活用を一考できるのではないか。

- 山根会長
 - ・ ミシガン州立大学からは公共交通に関する要望もあり、大学連携の可能性についても検討を進めて頂きたい。

- 後藤委員（運輸支局）
 - ・ ICカードやロケーションシステムにも使えるらしいが、成果が必要。
 - ・ 近江鉄道が京都から湖東三山への定期観光バスを走らせているが、近江鉄道も共同運行としてはいつている。JR 東海が東京～新大阪間でそのパンフレットを置いているので、湖東三山への利用も増えているのでそういった方法もあるのではないだろうか。

- （事務局）
 - ・ 公共交通に期待する役割としては、地域の高齢者の方の生活基盤・交通手段を確保すること、また、観光客への観光振興や学生の方に卒業後も定住してもらうことへのきっかけである。都市部からの流入を支える役割なども期待される。彦根市では都市交通マスタープランを策定中であり、また活性化協議会でも今後の事業展開をお諮りしていきたい。

3 閉会

以上